

# 特集にあたって

近年の interventional radiology (IVR) の進歩は目覚ましく、多くの救急疾患において緊急 IVR は重要な治療の選択肢になっています。とくに、**damage control** という観点から、IVR は低侵襲治療の代表として今日高く評価されています。

実際、救急現場において、緊急 IVR の適応とタイミング（優先順位）を迅速に判断することは、しばしば“救命のカギ”を握ります。一方、判断を見誤ると患者の予後を大きく左右するのをもまた事実です。

本特集では、救急医療に従事する医師が知っておくべき緊急 IVR の適応とタイミング、治療のポイントを、臨床の第一線でご活躍されている先生方に解説していただきました。どのようなポイントをおさえながら緊急 IVR を選択し、施行するのか、すなわち“緊急 IVR を選択する根拠と治療のポイント”を知ることは救急医療にかかわるすべての医師にとって、きわめて重要です。

各先生方には、実際に経験された貴重な緊急 IVR 症例を多数提示していただき、緊急 IVR における実践的な思考過程や判断基準を示していただきました。診療の現場において、若手を含む救急医師が緊急 IVR に関する考え方や治療の指針として直接参照できる特集号になっています。

是非、本特集を今日からの救急診療に最大限生かしていただきたいと願っています。